

施工要領書

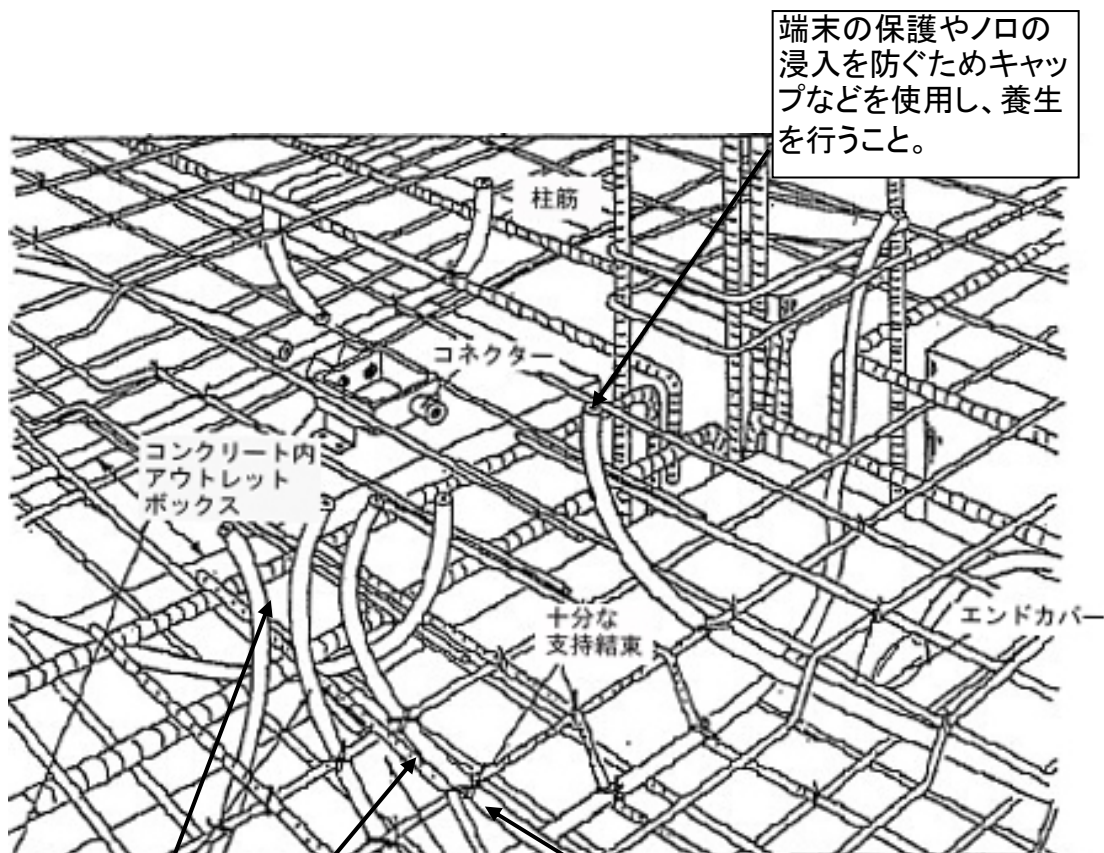
電気設備工事

タキバ電機株式会社

2013. 06. 05

施工標準	共通工事	接地工事（1）	001	
接地工事の種類は、「電気技術基準」に定める A種 B種 C種 及び D種とする。 避雷針用は除く、 接地抵抗値は下記に掲げる数値以下とする。				
1 接地種別は下記による。また、接地抵抗は下記目標値を原則とする。				
	種 別	記 号	規 定 値	目 標 値
電力設備	A種接地	EA	10Ω 以下	8Ω 未満
	B種接地	EB		
	D種接地	ED	100Ω 以下	90Ω 未満
	D種接地（ELB回路）	EDELB	100Ω 以下	90Ω 未満
	C種接地	EC	10Ω 以下	8Ω 未満
通信設備	構内交換機用直流電源装置	Et	10Ω 以下	8Ω 未満
	保安用（10Ω 以下）	Eat	10Ω 以下	8Ω 未満
	保安用（100Ω 以下）	Edt	10Ω 以下	8Ω 未満
	拡声用増幅器	EA	10Ω 以下	8Ω 未満
避雷設備	避雷設備	EL	10Ω 以下	8Ω 未満
	高圧設備	ELH	10Ω 以下	8Ω 未満
	低圧設備	ELL	10Ω 以下	8Ω 未満
2 接地極の埋設場所は、容易に改修可能な場所を原則とする。キュービクル基礎下部、コンクリート舗装下部等は、避けること。				
3 接地極上端の埋設深さは「GL-750以上」とし、接地極鋼板は「垂直」に埋設すること。また、埋設深さを示す工事写真を必ず撮影すること。				
4 接地極と接地線の接続は機械的に堅固に接続し自己融着テープを巻いた上にビニールテープを1/2重ね2回巻きすること。なお、工程写真を撮影すること。				
5 接地母線用埋設配管の端部は、止水処理を行うこと。				
6 接地線を「容易に人が触れる恐れのある場所」で、鉄柱その他の金属体にそって敷設する場合、接地極を地中でその金属体から1m以上離隔して埋設すること。ただし、その金属体の底面から0.3m以上深く埋設する場合を除く。				
7 接地極及び裸銅線の地中部分は、原則として避雷設備、避雷器の接地極及び裸銅線の地中部分と「2m以上」離隔して埋設すること。				
8 D種接地工事の「ED」と「EDELB」は、共用してはならない。				
9 接地抵抗測定は、「接地極埋設時」及び「通電前」に実施、試験成績書を提出のこと。 （値は「通電前」のものを記録すること。）				
上表に明記されていない項目は、電気技術基準、内線規定による。				
作 成		訂 正	訂 正	

施工標準	共通工事	配管工事	002																																																																					
A 埋込配管 (1) 管の切り口は平滑にし、管を曲げるときは管の断面が変形しないように又、管相互の接続は、専用のカップリングにより行う。 (2) ダブル配金の壁・スラブの配管は別紙の施工要領による。 (3) 打込み配管は（31）以下を原則とし、平行する配管は、ボックス近辺を除き、平行する配金と30mm以上の間隔をあけて敷設する。 (4) 柱・梁等の主筋に管を結束してはならない。 結束はビニールバンド又は被服付結束バンド線を使用する。 (5) 仮枠を取り外した後、早急に管内の清掃を行い、 空配管には呼び線として1.2mmのビニール被覆鉄線を挿入する。 B 露出配管 (1) 埋込配管の項によるほか、特に体裁を考慮する。 (2) 配管は整列の上ハンガー等に固定しその支持間隔は2m以下とする。 又塗装は合成樹脂調合ペイント2回塗りとする。 （P S等係員の承認する箇所は省略できる）加工部分は錆び止め塗装を行う。 C PF管・CD管 (1) CD管は、直接コンクリートに埋め込んで施設する場合を除き、専用の不燃性又は、自己消化性の有る難燃性の管、ダクトに収めて施設する。 (2) コンクリート埋設配管の結束間隔は500mm以下とし結束はビニールバンド又は被覆付結束バンド線を使用する。 施工場所における適用範囲は下記表による <table><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="3">合成樹脂可とう管配線 絶縁電線</th><th colspan="3">ケーブル配線</th></tr><tr><th>P F管 一重</th><th>P F管 二重</th><th>C D管</th><th>P F管 一重</th><th>P F管 二重</th><th>C D管</th></tr><tr><td>コンクリート埋設</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>隠蔽</td><td>○</td><td>○</td><td>X</td><td>○</td><td>○</td><td>X</td></tr><tr><td>露出</td><td>X</td><td>○</td><td>X</td><td>○</td><td>○</td><td>X</td></tr><tr><td>メタルラス、ワイヤラス 金属張りの木造造営物</td><td>○</td><td>○</td><td>X</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>屋内</td><td>X</td><td>○</td><td>X</td><td>○</td><td>○</td><td>X</td></tr><tr><td>屋外（地中埋設以外）</td><td>X</td><td>○</td><td>X</td><td>X</td><td>○</td><td>X</td></tr><tr><td>地中埋設（JIS3653の屋外 配線）に該当するもの</td><td>X</td><td>X</td><td>X</td><td>X</td><td>○</td><td>X</td></tr><tr><td>地中埋設（電技解釈第134条 地中電線路に該当するもの</td><td>X</td><td>X</td><td>X</td><td>X</td><td>X</td><td>X</td></tr></table> ○は使用可 ×は使用不可					合成樹脂可とう管配線 絶縁電線			ケーブル配線			P F管 一重	P F管 二重	C D管	P F管 一重	P F管 二重	C D管	コンクリート埋設	○	○	○	○	○	○	隠蔽	○	○	X	○	○	X	露出	X	○	X	○	○	X	メタルラス、ワイヤラス 金属張りの木造造営物	○	○	X	○	○	○	屋内	X	○	X	○	○	X	屋外（地中埋設以外）	X	○	X	X	○	X	地中埋設（JIS3653の屋外 配線）に該当するもの	X	X	X	X	○	X	地中埋設（電技解釈第134条 地中電線路に該当するもの	X	X	X	X	X	X
	合成樹脂可とう管配線 絶縁電線				ケーブル配線																																																																			
	P F管 一重	P F管 二重	C D管	P F管 一重	P F管 二重	C D管																																																																		
コンクリート埋設	○	○	○	○	○	○																																																																		
隠蔽	○	○	X	○	○	X																																																																		
露出	X	○	X	○	○	X																																																																		
メタルラス、ワイヤラス 金属張りの木造造営物	○	○	X	○	○	○																																																																		
屋内	X	○	X	○	○	X																																																																		
屋外（地中埋設以外）	X	○	X	X	○	X																																																																		
地中埋設（JIS3653の屋外 配線）に該当するもの	X	X	X	X	○	X																																																																		
地中埋設（電技解釈第134条 地中電線路に該当するもの	X	X	X	X	X	X																																																																		
作 成		訂 正		訂 正																																																																				



端末の保護やノロの浸入を防ぐためキャップなどを使用し、養生を行うこと。

梁に沿っての配管は、梁面より100mm以上離して行うこと。

パイプ曲げ半径は管内径の6倍以上を原則とする。直角またはこれに近い屈曲は設けないこと。

分電盤の上部・下部などで集中配管する場合は、建物強度を減少させないように考慮のこと。たとえば、配管集中箇所はその前でスラブ下に落とし込むなど、配管ルートを変える。また、メッシュなどで補強を行うか、あるいはスラブコンクリートを打ち増しするなどの方法をとること。

注意事項

- 1、管相互及び管と管に平行する鉄筋との間隔は、原則として30mm以上とする。
- 2、管の鉄筋への固定は、原則として1m以下とする。

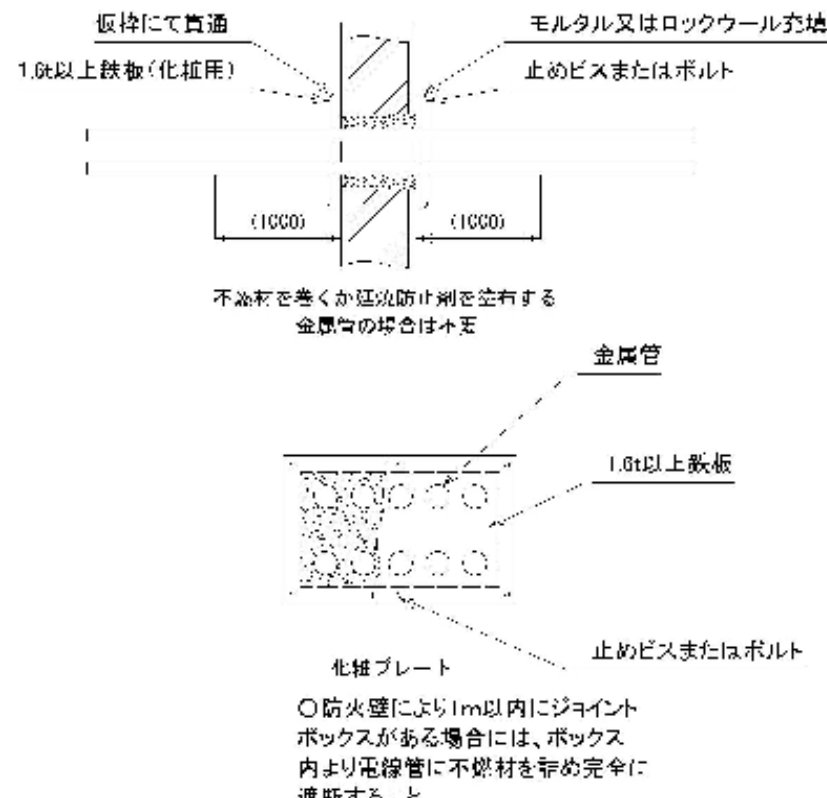
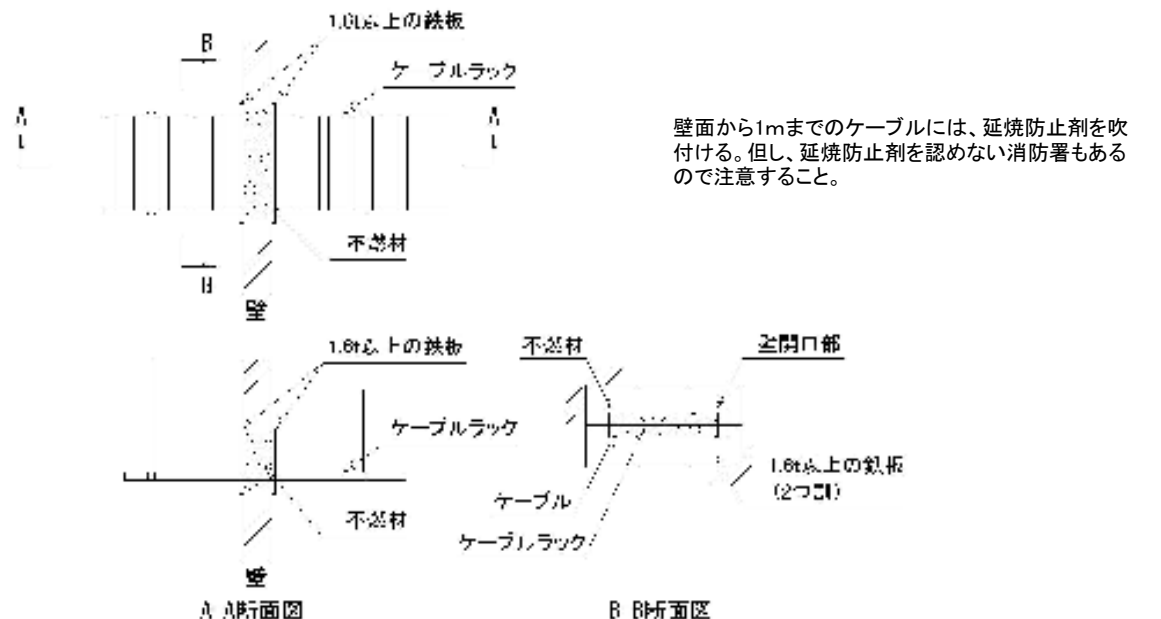
施工標準	配管工事 3	埋設配管施工要領 (2)	004
注意事項 1、管を床または壁に並列に配管する場合、管相互の間隔を30mm以上とする。 2、管の支持間隔はボックス周り及びカップリングによる接続近くは、原則として30mm以下、その他の建て込配管は1m以下とする。 背面図 側面図			
作成		訂正	訂正

施工標準		配線工事		施設場所と配線方法				005		
屋内、屋側及び屋外配線は、その施設場所に従い、使用電圧が300V以下は下表に示す配線方法によることとし、かつ、電線を損傷する恐れがないように施設しなければならない。										
[注]1. 配線は点検口を避けて施設すること。										
2. 湿気の多い場所及び水気のある場所は、内線規定5章（特殊場所）の規定によること。										
3. 取り付けビス類などで、ボックス内の電線を損傷しないように注意すること。										
4. 使用電圧が300V以上は内線規定400-3（4-2表）によること。										
施設場所と配線方法（300V以下）										
配線方法		施設可否						屋側 屋外		
		屋 内								
		露出場所		いんぺい場所						
				点検できる		点検できない				
乾燥した場所	湿気の多い場所又は水気のある場所	乾燥した場所	湿気の多い場所又は水気のある場所	乾燥した場所	湿気の多い場所又は水気のある場所	雨線内	雨線外			
がいし引き配線		○	○	○	○	×	×	㉔	㉔	
金属管配線		○	○	○	○	○	○	○	○	
合成樹脂管配線	合成樹脂管（CD管を除く）	○	○	○	○	○	○	○	○	
	C D 管	㉔	㉔	㉔	㉔	㉔	㉔	㉔	㉔	
金属製可とう電線管配線	一種金属製可とう電線管	○	×	○	×	×	×	×	×	
	二種金属製可とう電線管	○	○	○	○	○	○	○	○	
金属線び配線		○	×	○	×	×	×	○	○	
合成樹脂線び配線		○	×	○	×	×	×	×	×	
フロアダクト配線		×	×	×	×	㉔	×	○	○	
セルラダクト配線		×	×	○	×	㉔	×	×	×	
金属ダクト配線		○	×	○	×	×	×	×	×	
ライティングダクト配線		○	×	○	×	×	×	×	×	
バスダクト配線		○	×	○	×	×	×	㉔	㉔	
平形保護層配線		×	×	○	×	×	×	×	×	
キャプタイヤケーブル配線	ビニルキャプタイヤケーブル		○	○	○	×	×	×	㉔	㉔
	二種	クロロブレンキャプタイヤケーブル	○	○	○	○	×	×	㉔	㉔
		クロロスルホン化ポリエチレンキャプタイヤケーブル	○	○	○	○	×	×	㉔	㉔
		ゴムキャプタイヤケーブル	○	○	○	○	×	×	×	×
	三種 四種	クロロブレンキャプタイヤケーブル	○	○	○	○	○	○	○	○
		クロロスルホン化ポリエチレンキャプタイヤケーブル	○	○	○	○	○	○	○	○
		ゴムキャプタイヤケーブル	○	○	○	○	○	○	×	×
キャプタイヤケーブル以外のケーブル配線		○	○	○	○	○	○	○	○	
作成		訂正		訂正						

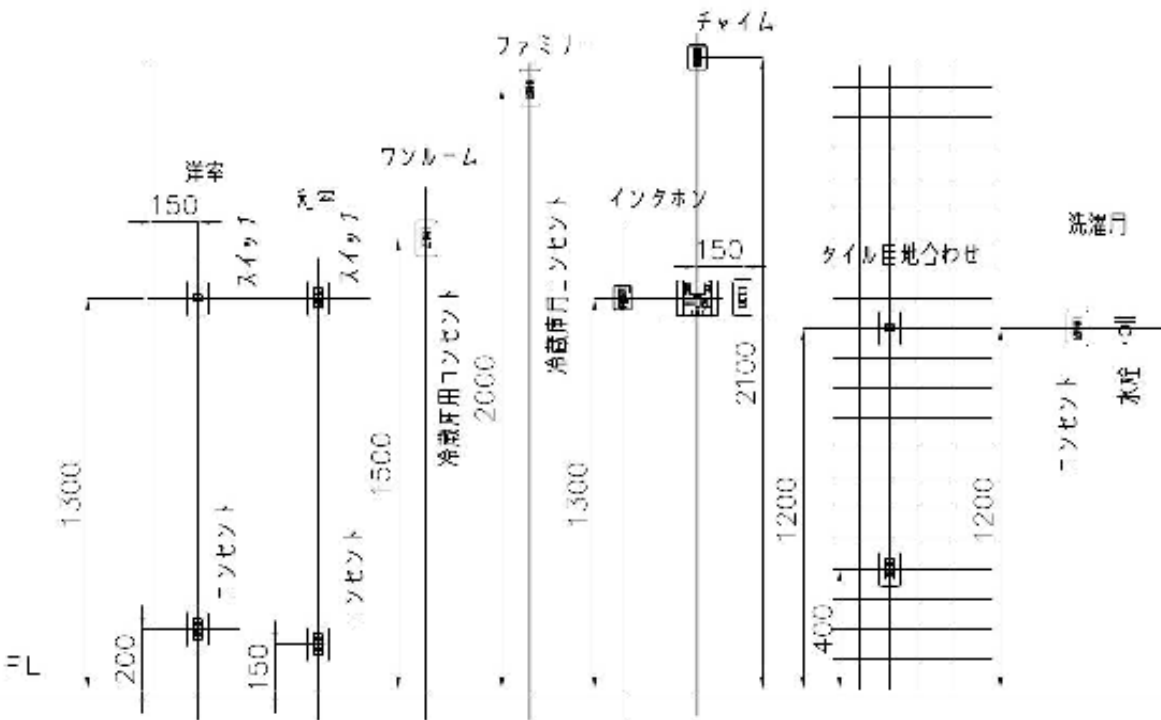
〔備考〕記号の意味は、次の通りである

- は、施設できる。
- ×は、施設できない。
- a は、露出場所及び点検できる隠蔽場所に限り、施設することができる。
- b は、直接コンクリートに埋め込んで施設する場合を除き、専用の不燃性又は自消性のある難燃性の管又はダクトに収めた場合に限り、施設することができる。
- c は、コンクリートなどの床内に限る。
- d は、屋外用のダクトを使用する場合に限り（点検できない隠蔽場所を除く）、施設することができる。

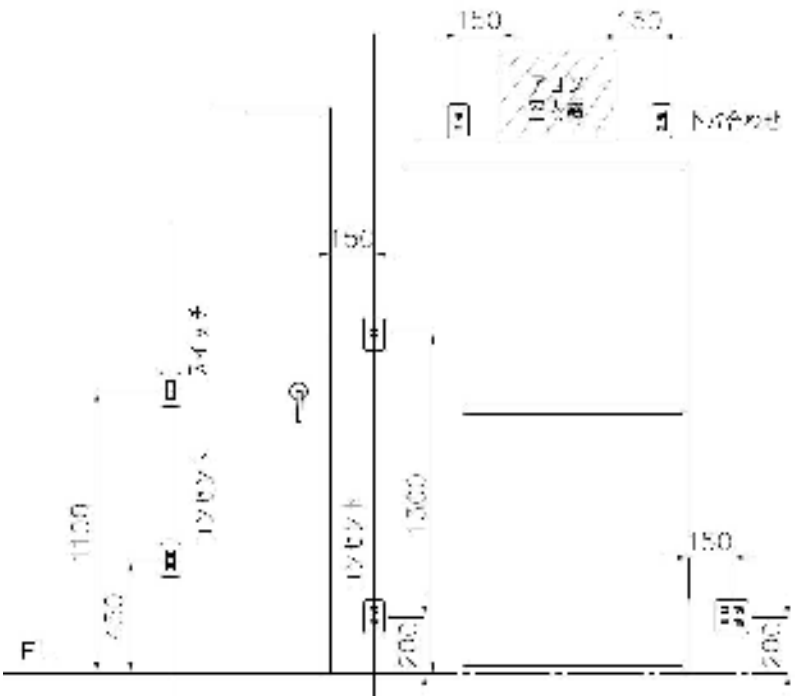
施工標準	配線工事	二重天井VAケーブル配線	006
A, 色別 (1) 3芯は、（黒）電源側・（白）中性線・（赤）電源送りとする。 アース線として使用する場合は赤線を使い接続部分は緑色ビニールテープ等で表示する。 2芯は、（黒）スイッチ側・（白）中性線とする。 B, 支持 (1) インシュロックにて天井吊りボルトに2m以内で支持する。全ネジボルトを使用している場合はVAケーブルとの接触面をビニールテープ等で保護する。 (2) メッセンジャーワイヤー等を使用し、VAケーブルハンガー等で支持する。 （吊り荷重スパンの検討は必要） (3) ステップル止め又は、各支持材による支持間隔は2m以内とする。 C, 接続 (1) 後日点検可能な場所に限り差込型電線コネクタでの接続可とする。 （ボックス省略は係員の指示による。） (2) 規格に適合した圧着スリーブ・圧着ペンチにて接続し、芯線に色を合わせた絶縁テープ巻きとする。（5.5sq以下3回巻き 8～60sq5回 100以上7回以上） (3) 接続部はジョイントボックスにて、接続部分の保護をする。			
注意事項 1. ケーブルの支持間隔は、2m以内とし、ボックス及び及び器具との接続箇所からは、30mm以内で支持する。ころがし配線の場合も接続点に近い場所で支持する。 2. 弱電ケーブル・水管・ガス管・金属ダクト等と交差する場合は、これらと接触しないよう支持する。 3. 電力ケーブルをまとめて支持する場合、許容電流の減少が起こる為、その本数を考慮する。 4. ケーブル支持材は、その許容荷重に配慮して、選定する。			
作成		訂正	
		訂正	

施工標準	貫通工事	防火区画貫通	007
防火区画を貫通する配管配線は、貫通部分及び壁面から両側1m以内の部分可不燃材で造り又は覆って、燃え抜けや煙の漏れを防ぐ構造とする。 電線管などと壁体との隙間の埋め戻しは、原則としてモルタルによる。 ケーブル貫通部においては不燃材を充填し、仕切板は耐火仕切板を使用する。 なお防火区画貫通部に用いる材料は 大臣認定番号のあるものとする。			
防火区画貫通工事施工例を示す			
金属管または合成樹脂管工事の場合			
			
ケーブルラックの場合 (イ) 延焼防止剤による方法			
			
作成		訂正	訂正

下記を標準仕様とする、ただし現場単位の設計図・監督員の指示を優先とする。



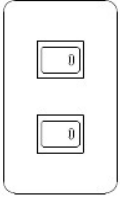
一般ワンルーム・ファミリーマンション



高年齢者対応住宅

一般的な器具取付

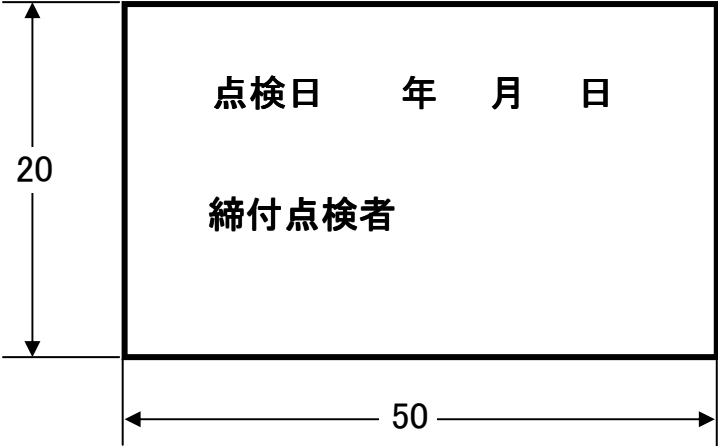
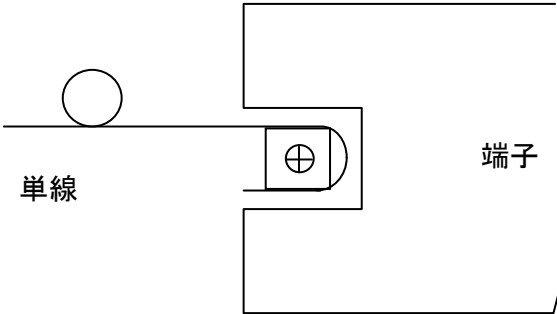
照明/換気扇の場合
照明を上配置する

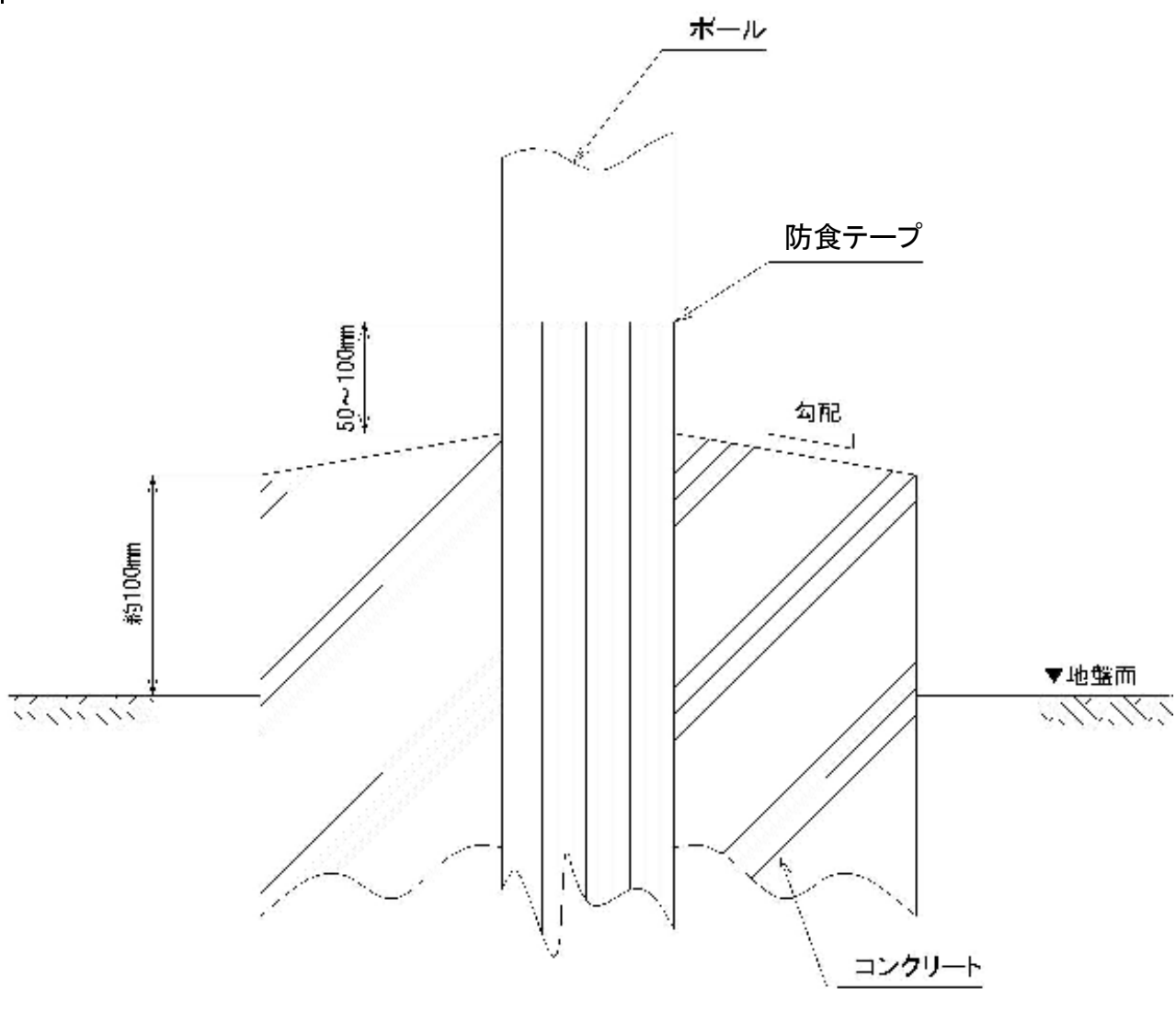


洋室/廊下の場合
洋室を上にする
スイッチ3個以上は
ネームスイッチとする

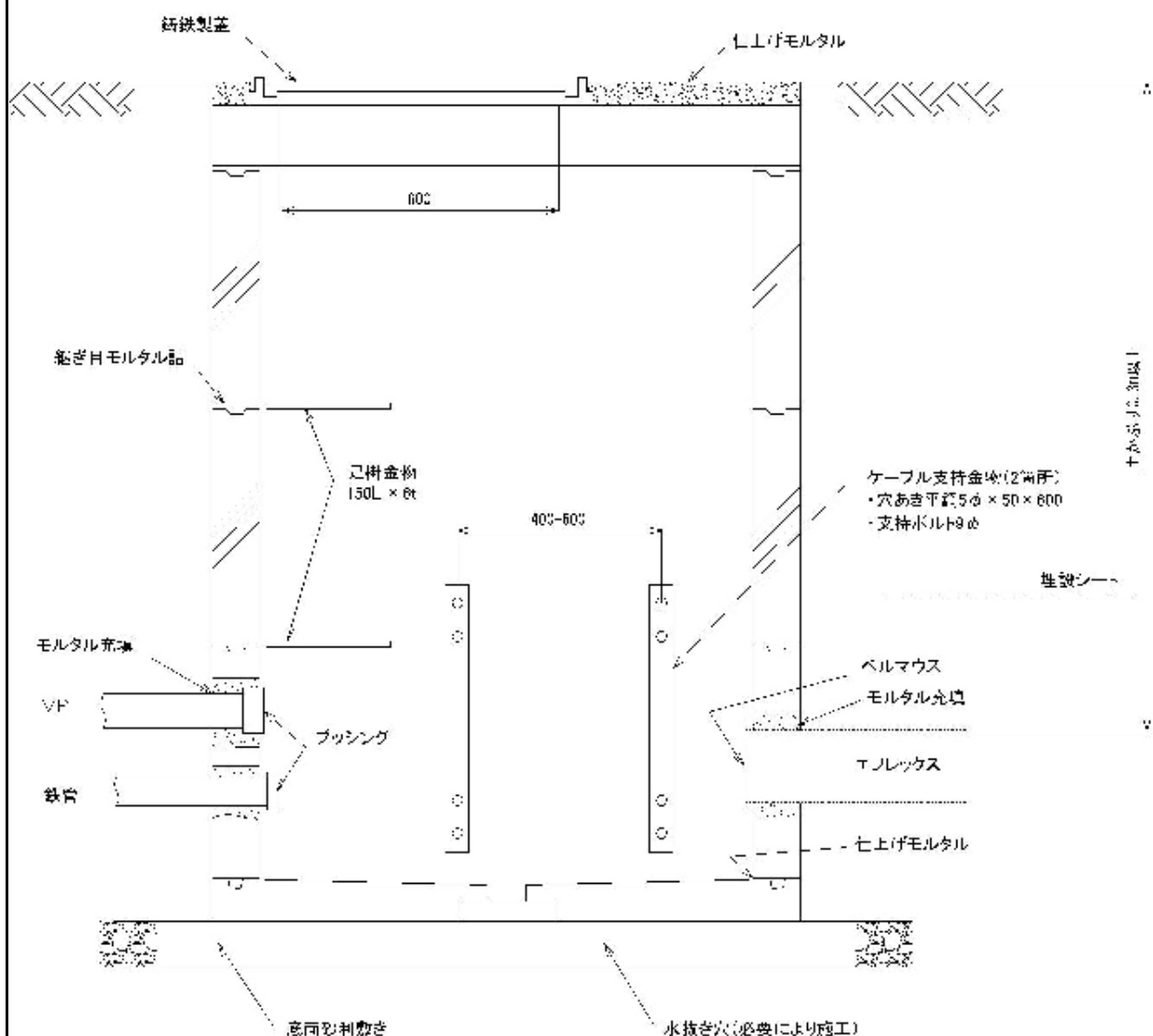
施工標準	外壁打込	外壁打込電気配管及びBOX	009
外壁には原則としてアウトレット等は打ち込まない事。照明等で、やむをえない場合は下記に留意し 施 工 する事。 柱・梁・耐力壁など構造耐力上主要な部分については打込み不可とする。 1. アウトレットボックスは浅型を使用する。 内側に絶縁塗料の塗布したものを使用する。 2. 配管は下から立ち上げないこと。 3. 配管を横から接続する場合は下り勾配とする。 4. 壁の仕上げ面がタイルなどで凹凸の場合は、器具のゴムパッキンが密着する ように施工する。 5. 外壁に打ち込むボックスには、断熱材を取り付ける。 6. 外部・浴室等の湿気の多い場所の絶縁テープは自己融着テープを使用する。 悪い例 良い例 ボックス内に水が入らぬよう ゴムパッキン等をつける 照明器具 ドリルアンカ(取付ボルトまたは?止め) アウトレットボックス 配管は必ず上からつなぎこむ。 ダブル筋の場合は中央、シングル筋の場合は室内側 へ配管する。 注 結露防止 ボックス内にロックソール充填する 室 内 コンクリート 配管			
作 成		訂 正	訂 正

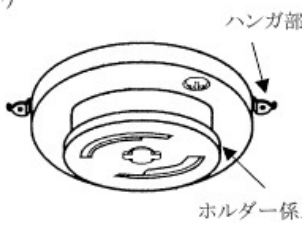
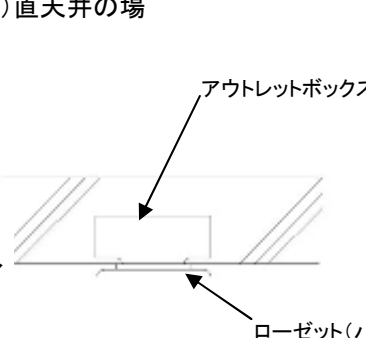
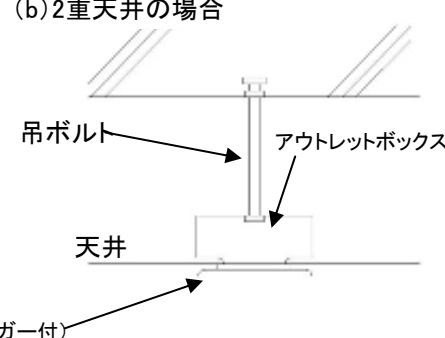
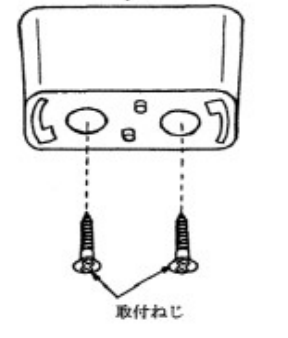
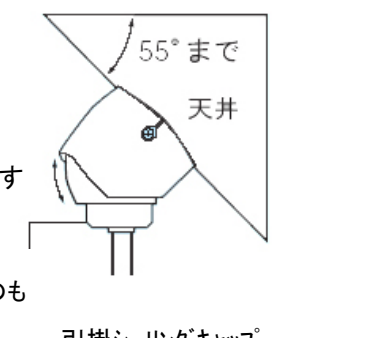
施工標準	屋上キュービクルの設置	010
(1) キュービクルの換気開口はチャンネルベースに設けない。 (2) チャンネルベースと基礎との取合部はポリサルファイド系シーリング材にてシールする。 (3) 基礎仕上面は勾配をとる。 (4) チャンネルベースは屋上パラペットの高さ以上に設ける。 (5) 下階への騒音伝達防止の為、トランスの防震を検討する。 (6) 据付は4分以上のアンカーボルトにて、耐震を配慮する。 (7) 高圧は配管工事とする。高圧配管の明示シールを貼り付ける。		
参考図		
作成		訂正
	訂正	

施工標準	幹線工事	盤類施工	011
1 盤内の端子カバーは透明なものを用い、端子の視認を容易にする。 2 MCBの端子等の接続部は圧着端子を使用する。 3 電線と盤内端子及び、機器端子との接続は、接続点に張力が加わらないように接続する。 クランプメータによる電流測定を容易にする為にも、電線に余裕をとる。 4 盤内端子は、竣工時に増し締めし、赤マジック等にてチェックマークを入れる事。 (締め付け点検者氏名をシール張りで記入する事。) 5 外部盤については、防水機能を満たす構造とする。 接続配管についても同様に防水を考慮した配管をする。 6 丸単子の使用を原則とする。 (例)  			
作成		訂正	
		訂正	

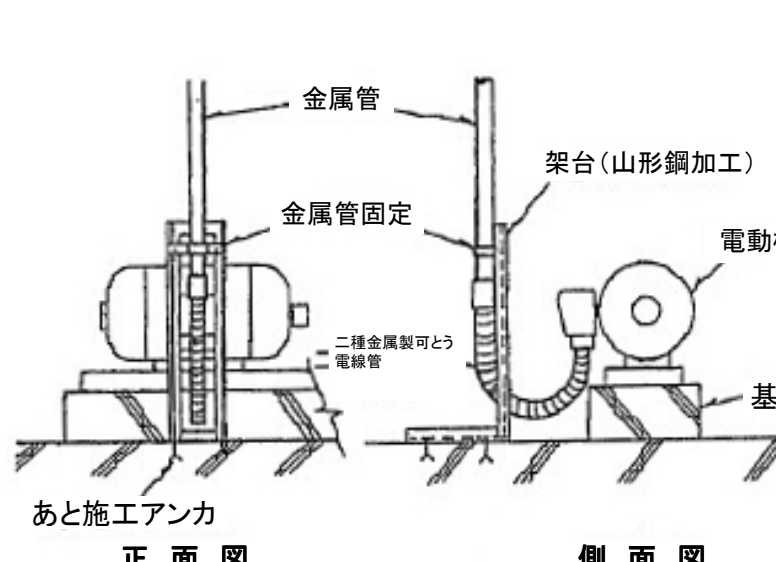
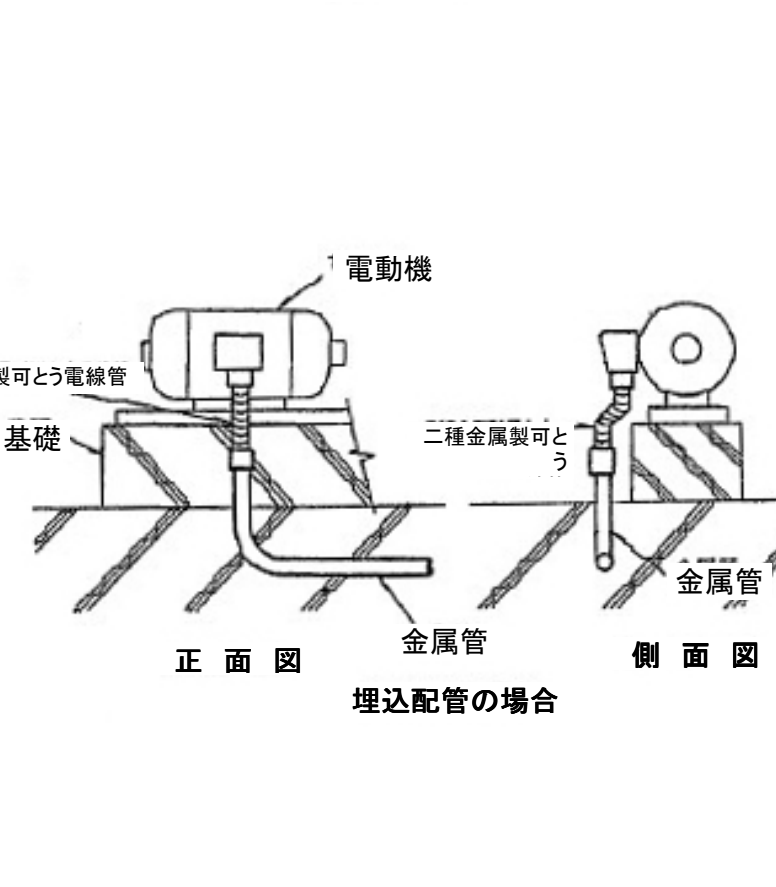
施工標準	屋外ポールの防食対策	012
(1) ポールの基礎は、地盤面より約100mm立ち上げ、上面は水切り勾配をつける事。 (2) ポールと基礎の接触面は、防食テープにて保護し、基礎上面より50～100mm迄巻き上げること。（下から上へ1/2ずつ重ねあわせて巻く）  The diagram illustrates the construction of a pole foundation. A vertical pole is shown with a label 'ポール' (Pole) at the top. The foundation is a concrete base labeled 'コンクリート' (Concrete) at the bottom right. The ground level is indicated by a horizontal line with a downward arrow and the label '▼地盤面' (Ground Level). The foundation is raised from the ground level by approximately 100mm, as indicated by a vertical dimension line on the left labeled '約100mm'. The top surface of the foundation has a drainage slope, labeled '勾配' (Slope). The contact surface between the pole and the foundation is protected with a waterproofing tape labeled '防食テープ' (Anti-corrosion Tape). The tape is applied in a staggered manner, with each layer overlapping the previous one by half, as indicated by the text '(下から上へ1/2ずつ重ねあわせて巻く)'. The tape is applied from the bottom of the pole up to a height of 50~100mm from the top of the foundation, as indicated by a vertical dimension line labeled '50~100mm'.		
作成		訂正
	訂正	

- (1) 蓋は鋳鉄製とし、車両その他の重量物の圧力を受ける場所では、重荷重型を使用する
- (2) 埋設深さは、設計図の指示による。
- (3) 常水面が高く水抜きパイプを設ける事が出来ない時、ハンドホールと管端部分防水処理をする。
- (4) 多孔陶管、暗渠式の場合、構造等は管理者の指示による。
- (5) 埋設シートを敷設する。

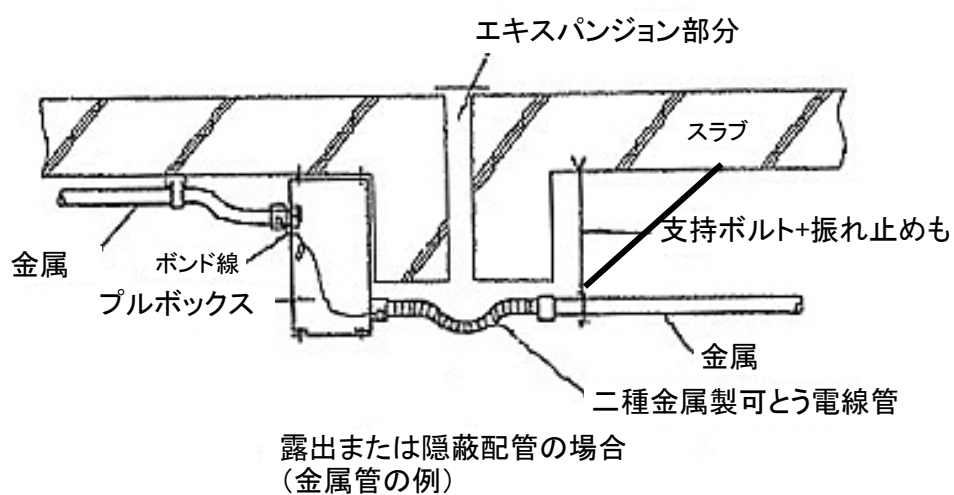
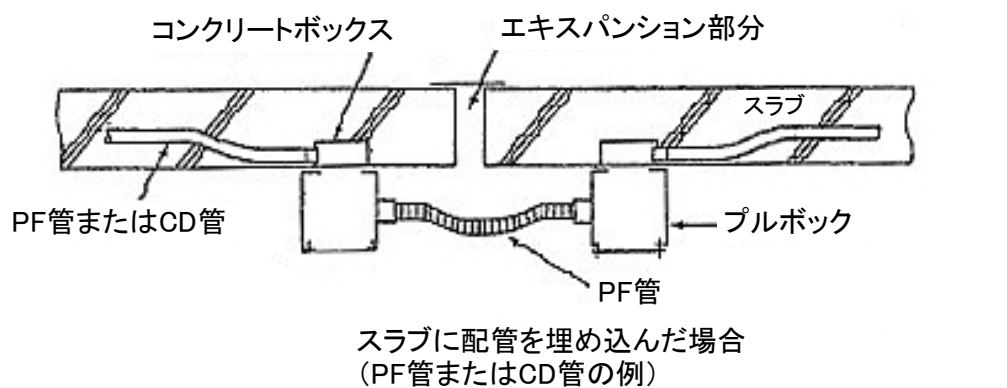


施工標準	器具取付	照明器具のつり方	014
(1) 洋室の場合 引掛け埋込シーリング（パナニックWG6005相当品）を使用する。 但し、アウトレットボックスは躯体打込、又はスラブから吊りボルトで吊る。 許容吊り荷重は、10 k g までとする。 テスト荷重は20 k g とする。 ボードアンカーは使用不可とする。			
 ハンガ部 ホルダー係止部 OWG6005W 引掛埋込ローゼット(ミルキーホワイト) (フル端子)(送り端子付) (a) 直天井の場合  アウトレットボックス ローゼット(ハンガー付) (b) 2重天井の場合  吊ボルト アウトレットボックス 天井			
(2) 和室の場合 角型シーリングを使用する場合シーリングにかかる器具荷重は5 k g 以下のものを使用する。 ビスは天井下地に届く十分な長さのものを使用する。 天井下地が軽天の場合木材等にて補強すること。			
OWG1000 フルシリーズ角型引掛シーリング(ボディ) 6A250V▼  取付ねじ			
(3) 傾斜天井の場合 傾斜天井用引掛けシーリング（パナニックWG4402W）を使用する。 ペンダント重量は5 k g までとする。			
傾斜天井用引掛けシーリング(傾斜天井に取付可能)			
 OWG4402W 標準価格3,500円(税別) 傾斜天井用引掛シーリング (ホワイト)(フル端子) 約45° までの傾斜天井に 取付けできます。 ご注意 ペンダントは0.5kg以上5.0kg以下のもの にして下さい  55° まで 天井 可動します 引掛シーリングキャップ			
作 成	訂 正	訂 正	

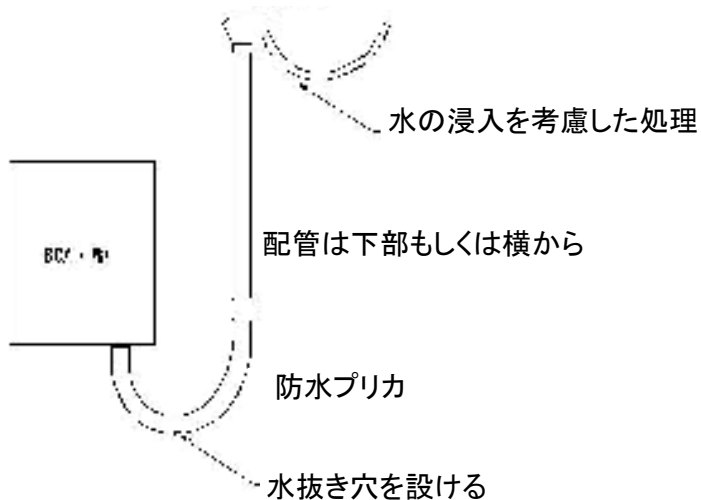
施工標準	配線工事	電線の接続と接触防止	015
(1) 絶縁被覆のはぎ取りは、芯線を傷つけないように行う。 (2) 芯線相互の接続は、原則として圧着スリーブ・電線コネクタ・圧着端子など電線に適合した接続金具を用いる。 (3) 電線相互の接続部分のテープ巻きは、50%ラップ2回巻き以上とし、絶縁被覆と同等以上の効力があるように巻き付ける。 テープ巻き回数は上記を最低とし、電線の太さに応じて増加する。 (ここでいうテープはビニールテープ0.2mmのことである) 技術基準 12条 (4) ケーブル工事の場合は、ガス管、空調衛生配管・ダクト等と接触させないこと。 技術基準 204条 [大阪ガス内管工事設計ハンドブックから] 低圧600V以下のケーブル配線には、接触させないこと。 各市町村の火災予防条例で明示されている場合は、それによること。 *万一接触する場合は、絶縁物等で保護する。			
作成		訂正	訂正

施工標準	配管工事	電動機への接続	016
(1) 電動機の端子箱がついている場合、2種金属製可とう電線管（プリカチューブ）で接続する。 (2) 防滴・防湿を必要とする場所に設ける場合は、防水プリカチューブを用いる。 (3) 電動機は接地端子より、接地線にて接地する。 (4) 床に常時水が含浸している恐れのある場所では、上部からの立ち上げを原則とする。			
			
露出配管の場合			
			
埋込配管の場合			
作成		訂正	訂正

1 電線・ケーブルはボックス内で十分な余裕を持たせる。



外部引込等配管処理



施工標準	配線・配管工事	電線管のサイズ選定 電線・ケーブルの許容電流値	018
------	---------	----------------------------	-----

比較的使用頻度の高い薄鋼電線管・CD管及び合成樹脂製可とう管の太さの選定表と
600V IV電線 CVケーブル 600V C V-Tの許容電流値表を内戦規定より抜粋しました。

4-10表 薄鋼電線管の太さの選定

電線の本数		電線管の最小太さ(管の口径)									
1心	2心	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1.0		15	15	15	25	25	25	31	31	31	31
2.0		15	18	18	25	25	25	31	31	31	31
2.5	2.5	15	18	25	25	25	31	31	39	39	39
3.2	3	15	25	25	31	31	31	39	39	39	51
	1.4	8	23	31	31	38	38	51	51	51	51
	2.2	19	21	31	33	51	51	51	51	63	63
	2.6	23	25	31	51	51	63	63	63	75	75
	5.0	25	5	51	51	63	63	75	75		
	10.0	31	51	63	63	75	75				
	15.0	39	63	75							
	20.0	51	75	75							

(備考1) 電線一本に対する数字は、接地線及び電流回路の電線にも通用する
(備考2) 本表は、実験と経験に基づき決定したものである

1. 500Vビニル絶縁 ビニル外装ケーブルの許容電流値 (単位は：A)

電線 径φ	1心			2心			3心					
	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0
	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0	1.0	1.5	2.0
1.0	1	1	2	1	2	4	-	1	1	-	-	-
1.5	1	1	3	1	3	5	-	1	3	-	-	-
2.0	1	1	4	1	4	6	-	1	4	-	-	-
2.5	1	1	5	1	5	7	-	1	5	-	-	-
3.0	1	1	6	1	6	8	-	1	6	-	-	-
3.5	1	1	7	1	7	9	-	1	7	-	-	-
4.0	1	1	8	1	8	10	-	1	8	-	-	-
4.5	1	1	9	1	9	11	-	1	9	-	-	-
5.0	1	1	10	1	10	12	-	1	10	-	-	-
5.5	1	1	11	1	11	13	-	1	11	-	-	-
6.0	1	1	12	1	12	14	-	1	12	-	-	-
6.5	1	1	13	1	13	15	-	1	13	-	-	-
7.0	1	1	14	1	14	16	-	1	14	-	-	-
7.5	1	1	15	1	15	17	-	1	15	-	-	-
8.0	1	1	16	1	16	18	-	1	16	-	-	-
8.5	1	1	17	1	17	19	-	1	17	-	-	-
9.0	1	1	18	1	18	20	-	1	18	-	-	-
9.5	1	1	19	1	19	21	-	1	19	-	-	-
10.0	1	1	20	1	20	22	-	1	20	-	-	-
10.5	1	1	21	1	21	23	-	1	21	-	-	-
11.0	1	1	22	1	22	24	-	1	22	-	-	-
11.5	1	1	23	1	23	25	-	1	23	-	-	-
12.0	1	1	24	1	24	26	-	1	24	-	-	-
12.5	1	1	25	1	25	27	-	1	25	-	-	-
13.0	1	1	26	1	26	28	-	1	26	-	-	-
13.5	1	1	27	1	27	29	-	1	27	-	-	-
14.0	1	1	28	1	28	30	-	1	28	-	-	-
14.5	1	1	29	1	29	31	-	1	29	-	-	-
15.0	1	1	30	1	30	32	-	1	30	-	-	-
15.5	1	1	31	1	31	33	-	1	31	-	-	-
16.0	1	1	32	1	32	34	-	1	32	-	-	-
16.5	1	1	33	1	33	35	-	1	33	-	-	-
17.0	1	1	34	1	34	36	-	1	34	-	-	-
17.5	1	1	35	1	35	37	-	1	35	-	-	-
18.0	1	1	36	1	36	38	-	1	36	-	-	-
18.5	1	1	37	1	37	39	-	1	37	-	-	-
19.0	1	1	38	1	38	40	-	1	38	-	-	-
19.5	1	1	39	1	39	41	-	1	39	-	-	-
20.0	1	1	40	1	40	42	-	1	40	-	-	-
20.5	1	1	41	1	41	43	-	1	41	-	-	-
21.0	1	1	42	1	42	44	-	1	42	-	-	-
21.5	1	1	43	1	43	45	-	1	43	-	-	-
22.0	1	1	44	1	44	46	-	1	44	-	-	-
22.5	1	1	45	1	45	47	-	1	45	-	-	-
23.0	1	1	46	1	46	48	-	1	46	-	-	-
23.5	1	1	47	1	47	49	-	1	47	-	-	-
24.0	1	1	48	1	48	50	-	1	48	-	-	-
24.5	1	1	49	1	49	51	-	1	49	-	-	-
25.0	1	1	50	1	50	52	-	1	50	-	-	-
25.5	1	1	51	1	51	53	-	1	51	-	-	-
26.0	1	1	52	1	52	54	-	1	52	-	-	-
26.5	1	1	53	1	53	55	-	1	53	-	-	-
27.0	1	1	54	1	54	56	-	1	54	-	-	-
27.5	1	1	55	1	55	57	-	1	55	-	-	-
28.0	1	1	56	1	56	58	-	1	56	-	-	-
28.5	1	1	57	1	57	59	-	1	57	-	-	-
29.0	1	1	58	1	58	60	-	1	58	-	-	-
29.5	1	1	59	1	59	61	-	1	59	-	-	-
30.0	1	1	60	1	60	62	-	1	60	-	-	-
30.5	1	1	61	1	61	63	-	1	61	-	-	-
31.0	1	1	62	1	62	64	-	1	62	-	-	-
31.5	1	1	63	1	63	65	-	1	63	-	-	-
32.0	1	1	64	1	64	66	-	1	64	-	-	-
32.5	1	1	65	1	65	67	-	1	65	-	-	-
33.0	1	1	66	1	66	68	-	1	66	-	-	-
33.5	1	1	67	1	67	69	-	1	67	-	-	-
34.0	1	1	68	1	68	70	-	1	68	-	-	-
34.5	1	1	69	1	69	71	-	1	69	-	-	-
35.0	1	1	70	1	70	72	-	1	70	-	-	-
35.5	1	1	71	1	71	73	-	1	71	-	-	-
36.0	1	1	72	1	72	74	-	1	72	-	-	-
36.5	1	1	73	1	73	75	-	1	73	-	-	-
37.0	1	1	74	1	74	76	-	1	74	-	-	-
37.5	1	1	75	1	75	77	-	1	75	-	-	-
38.0	1	1	76	1	76	78	-	1	76	-	-	-
38.5	1	1	77	1	77	79	-	1	77	-	-	-
39.0	1	1	78	1	78	80	-	1	78	-	-	-
39.5	1	1	79	1	79	81	-	1	79	-	-	-
40.0	1	1	80	1	80	82	-	1	80	-	-	-
40.5	1	1	81	1	81	83	-	1	81	-	-	-
41.0	1	1	82	1	82	84	-	1	82	-	-	-
41.5	1	1	83	1	83	85	-	1	83	-	-	-
42.0	1	1	84	1	84	86	-	1	84	-	-	-
42.5	1	1	85	1	85	87	-	1	85	-	-	-
43.0	1	1	86	1	86	88	-	1	86	-	-	-
43.5	1	1	87	1	87	89	-	1	87	-	-	-
44.0	1	1	88	1	88	90	-	1	88	-	-	-
44.5	1	1	89	1	89	91	-	1	89	-	-	-
45.0	1	1	90	1	90	92	-	1	90	-	-	-
45.5	1	1	91	1	91	93	-	1	91	-	-	-
46.0	1	1	92	1	92	94	-	1	92	-	-	-
46.5	1	1	93	1	93	95	-	1	93	-	-	-
47.0	1	1	94	1	94	96	-	1	94	-	-	-
47.5	1	1	95	1	95	97	-	1	95	-	-	-
48.0	1	1	96	1	96	98	-	1	96	-	-	-
48.5	1	1	97	1	97	99	-	1	97	-	-	-
49.0	1	1	98	1	98	100	-	1	98	-	-	-
49.5	1	1	99	1	99	101	-	1	99	-	-	-
50.0	1	1	100	1	100	102	-	1	100	-	-	-
50.5	1	1										

	検査	自主検査要領	019
(1) 各機器のテスト及び試験調整 1 コンセント等はテストランプ・コンテスターで全数チェックを行う。 * 極性・接地状態 2 電灯スイッチは、全数点灯テストを行う、又、デーライトタイマーの点灯確認も行う。 * 取り付け器具の型式照合・関連スイッチの連動及び単独点灯及び点灯範囲の確認。 3 テストランプ及び照明点灯にて、各回路の負荷チェックを行う。 * 回路チェックに際しては、ブレーカー単独で行い該当ブレーカー以外を全て各スイッチによるOFFの状態で行う。 4 警報、動力盤については、シーケンス試験・インターロック試験を行い、警報、現地・遠方、手動・自動等全機能テストを行う。 5 設備機器等のモーターの回転方向チェックは、相回転計・目視にて全点チェックする。設備機器試運転には立会い電圧・負荷電流の確認を行う。 6 防災機器（消防設備）は全数動作確認し消防検査に備える。 7 予備品・保証書・鍵・竣工図面・竣工図書を準備する。 (2) 各種測定及び試験結果表 1. 接地抵抗測定試験 2. 絶縁抵抗測定試験（引込・幹線・動力・弱電回路等） 3. 非常照明照度測定試験 4. 一般照明照度測定 5. テレビ電界強度測定試験 6. その他の装置試験 (3) その他特殊機器及び施主・管理者からの要望があれば上記以外の検査及び試験結果を提出する。			
		訂 正	訂 正